

令和3年度 第1回 (通算第48回)
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和3年6月14日 (月) 午後2時~4時
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ・新任職員紹介

2 議 事

〈 審 議 〉

- (1) 令和4年度の企画展・シンボル展について 【資料1】
(2) 令和4年度の研究計画について 【資料2】

〈 報 告 〉

- (1) 開催済み展覧会について 【資料3】
・特別展「未来へ伝えたい 甲斐の国のたからもの
～新指定文化財・収蔵品展～」
・シンボル展「強請祈願とやまなしの雨乞い」
・特別展「生誕500年 武田信玄の生涯」
(2) 資料・情報委員会の開催状況について 【資料4】
(3) 令和3年度の利用者状況について 【資料5】
(4) みんなでつくる博物館協議会の開催状況について 【資料6】

3 その他

閉 会

開館15周年記念特別展
「未来へ伝えたい 甲斐の国のたからもの
～新指定文化財・収蔵品展～」
終了報告

1 概要

【内容】

平成17年、山梨県立博物館は「山梨の自然と人」を基本テーマとして開館した。以来、基本テーマに沿って調査研究・資料収集に努め、令和2年に開館15周年を迎えた。15周年の節目にあたり、これまで調査研究・収集を進めてきた収蔵品をはじめ、近年県内で新たに文化財指定を受けた資料を中心に、本県の文化財の素晴らしさと、それらを守り伝えていくことの大切さを、あらためて紹介した。

【期間】 令和元年10月24日（土）～12月7日（月）
会期日数45日（開館日数39日）

【主催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社・山梨放送

【観覧料】 一般500（400）円、大学生250（200）円
※（）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般820円、大学生370円

【主な展示資料】

「釈迦三尊十八羅漢図」（重要文化財・一蓮寺蔵）、「法然上人絵伝」（重要文化財・山梨県立博物館蔵）、「仏涅槃図」（山梨県指定文化財・久遠寺蔵）、「聖観音立像」（山梨県指定文化財・大福寺蔵）、「勝軍地藏騎馬像」（山梨県指定文化財・清水寺蔵）、「一宮神社信仰資料」（山梨県指定文化財・一宮神社蔵）、「鰐口」（山梨県指定文化財・慈照寺）、「日枝神社台般若経」（山梨県指定文化財・日枝神社）、「常在寺文書」（山梨県指定文化財・常在寺）、「酒呑場遺跡出土品」（重要文化財・山梨県立考古博物館）、「上窪遺跡墓跡出土品一括」（山梨県指定文化財・中央市教育委員会）等、「八王子神祈願図絵馬」（山梨県指定文化財・神戸自治会）等 55件。

【関連イベント】

- ・開館15周年記念歴代館長によるトークショー 参加者：50名
開催日：10月31日（土） 会場：生涯学習室
- ① 基調講演「道祖神祭りから歩み出した山梨県立博物館の15年」
講師：平川南名誉館長（人間文化研究機構 機構長）
時間：13:00～14:00
- ② 名誉館長・館長によるトークショー
出演：平川南名誉館長、守屋正彦館長
時間：14:15～15:30

・ 記念講演会

「甲斐の国のたからもの一ふるさとの未来をつくるために」

講師：笹本正治氏（長野県立歴史館 館長）

日時：11月15日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室 参加者：30名

・ かいじあむ子ども工房

「ウッドバーニングでヨゲンノトリのストラップをつくろう」

日時：11月14日（土）

① 10：30～11：30 ②13：00～14：00 ③14：00～15：00

場所：体験学習室 参加者：各回4名

・ ギャラリートーク

日時：11月7日（土）、22日（日）、28日（土） 13：30から1時間程度

場所：生涯学習室

【発行物】 図録 A4変形・112頁 800部

2 入場者数

【入館者数】 7,292名（1日平均入館者数：186名）

3 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 900枚
・ちらし A4 35,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞記事（山日新聞 連載など）

4 総括

- 本展覧会期間中は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、アンケートをインターネットよりの回答とした。そのため企画展に対する回答も非常に少なく、13件にとどまった。
- 様々な種類の文化財を見られて楽しかった、文化財の展示に留まらず地域の文化を守り伝える姿勢が展示の節々に見られた、という総括的な文化財展ならではの趣旨と、文化財保存の大切さを伝えるという本展本来の趣旨が伝わった様子が見て取れた一方、より詳しい解説を求める意見もあった。
- 開催に先立ち、県民による博物館資料の人気投票を新聞紙上でを行い、得票数の多かった資料を展示に反映した。マスコミとの共催の利点を活かしながら、県民参画の要素も盛り込んだ内容とすることができた。
- 本展は収蔵品と県内文化財のみで構成したものであり、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策下の展覧会企画・運営という点からも注目すべき内容となった。

シンボル展
「強請祈願とやまなしの雨乞い」
終了報告

1. 概要

【内 要】

強請祈願は神仏に対する願掛けの方法のひとつであり、現在でも生活や年中行事のなかにその考え方が息づいている。山梨における強請祈願は、雨乞に際して行われることが多かった。梨市市川の清水寺に伝えられた雨乞いの仏像と、昭和40年頃に記録された雨乞いの儀式の貴重な記録映像を中心として紹介するとともに、山梨県内各地で行われてきた雨乞いのさまを通じて、山梨の水との関わりの歴史の一端を探った。

【期 間】 令和3年1月2日（土）から同年2月23日（月）
会期日数54日（開館日数47日）

【主 催】 山梨県立博物館

【会 場】 企画展示室（2/6）

【観覧料】 常設展観覧料（一般520円、大学生220円） ※高校生以下無料

【展示構成】 ①いじめられる仏像～清水寺の雨乞い～
清水寺のアマゴイサンと、昭和40年代に行われた雨乞いの映像を紹介した。
②強請祈願のかたち
現代の習俗や年中行事に残る強請祈願の事例を紹介した。
③さまざまな雨乞い
強請祈願やそれ以外の祈願方法による山梨県内の雨乞いの事例を紹介した。

【主な展示資料】 アマゴイサン（山梨市清水寺）／雨乞い記録映像（山梨市個人撮影）／
ダルマ（県立博物館）／諏訪神社の石棒（甲斐市牛匂地区）／雨乞い唄（県立博物館）
等 20点

【関連イベント】

- ・ギャラリー・トーク 1月9日（土）、1月31日（日）、2月23日（火・祝）
※いずれも14:00～15:00 参加者：10名
- ・あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば「雨乞いの仏像を作ろう」1月17日（日）
- ・あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば「雨乞いをしてみよう」2月7日（日）
※いずれも11:00～11:30 参加無料 参加者：各6名
- ・ゆかりの地ツアー「小瀬周辺の水にまつわる土地を歩く」2月6日（土）
【第1部 小瀬周辺を歩く】9:30～12:00 参加費500円
【第2部 ギャラリートーク】14:00～15:00
※第1部、第2部とも現地集合、事前申込み制 参加者：各15名

【リーフレット】 A4判二つ折り 4頁 4,000部（無料配布）

2. 入場者数

【総入場者数】 ・1,954人 (一日平均 約41人)

3. 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 600枚
・ちらし A4 20,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞記事 (山日：2回、山梨新報：1回、日本農業新聞：1回)

4. まとめ

- ・雨乞いは「行為」であることから、モノだけでなく映像や音声も展示に利用した。そのうち、冒頭では清水寺のアマゴイサンとともに記録映像を紹介することで、「強請祈願による雨乞い」の激しさや行事の雰囲気をも効果的に伝えることができた。
- ・「強請祈願」という用語に馴染みがない方は多かったものの、ダルマやてるてる坊主などの身近な例を示すことで理解を得られた。
- ・ギャラリー・トークは、会場内の密集を避けるため参加者を先着10名とした。参加者自身が距離を保つことに協力的であり、混乱なく終えることができた。
- ・ギャラリー・トークの終盤、展示を観て思ったこととして参加者自身が幼少期における水や雨乞いの記憶を語りはじめたことがあった。他の参加者もそれに耳を傾け、展示会の趣旨が浮き彫りとなるような出来事であった。個人の語りも資料となる民俗分野の展示においては、資料がひとつ追加されたような形となり、大変ありがたかった。
- ・展示会開始後に、甲斐市牛句地区から出品の申し出をいただき、途中から展示に追加した。企画展やシンボル展において、このような要望のすべてに応えていくことは難しいが、牛句地区の雨乞いは現代の事例としてスライドショーで写真を紹介していたことから展示ストーリー上の位置付けやスペースの確保が可能であり、対応することができた。

開館 15 周年記念特別展 「生誕 500 年 武田信玄の生涯」 終了報告

1 概要

【内 容】

郷土の英雄として現在も様々な形で語り継がれる武田信玄（1521～73）は、2021年に生誕 500 年を迎える。信玄は甲斐国から信濃・上野・駿河などに領国を拡大して全国有数の戦国大名となり、川中島の戦いなどの合戦、信玄堤に代表される政策など、後世まで大きな影響を与えた。

本展では、武田信玄の 53 年の生涯について、年代順に関連資料を紹介してその業績を振り返るとともに、信玄が生きた戦国時代の社会、信玄と争った戦国大名、信玄を支えた一族と家臣団等について総合的に紹介した。

【期 間】 令和 3 年 3 月 13 日（土）～5 月 10 日（月）

会期日数 59 日（開館日数 51 日）

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【観覧料】 一般 1,000（840）円、大学生 500（420）円

※（ ）内は 20 名以上の団体料金、県内宿泊者割引

※ 常設+企画共通 一般 1,260 円、大学生 590 円

【主な展示資料】

「武田信玄像」（山梨県立博物館蔵）、「武田信玄像」（恵林寺蔵（信玄公宝物館保管））、「武田信虎像」（重要文化財・大泉寺蔵）、「武田信虎夫人像」（重要文化財・長禅寺蔵（東京国立博物館寄託））、「八幡宮御祭御供日記」（個人蔵（山梨県立博物館寄託））、「武田晴信願文」（長野県宝・個人蔵）、「狛犬」（山梨県指定文化財・大井俣窪八幡神社蔵）、「後奈良天皇般若心経」（重要文化財・甲斐國一宮浅間神社蔵）、「蛭藻金・碁石金」（山梨県立博物館蔵）、「上杉謙信并二臣像」（新潟県指定文化財・常安寺蔵）、「川中島合戦図屏風」（米沢上杉博物館蔵）、「北條氏康像」（神奈川県指定重要文化財・早雲寺蔵）、「六十二間筋兜」（神奈川県指定重要文化財・寒川神社蔵）、「黄八幡の旗」（真田宝物館蔵）、「織田信長書状」（国宝・米沢市上杉博物館蔵）、「不動明王及二童子像」（山梨県指定文化財・恵林寺蔵）、「猿図」（重要文化財・東京国立博物館蔵）、「柳沢吉保像」（山梨県指定文化財・常光寺蔵）等 150 件。

【関連イベント】

○記念講演会

第 1 回「武田信虎と信玄」

講師：平山優氏（武田氏研究会副会長）

日時：3 月 27 日（土） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：38 名

第2回「義信事件と対今川氏外交」

講師：丸島和洋氏（東京都市大学准教授）

日時：4月3日（土） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：43名

第3回「上杉氏にとっての川中島合戦」

講師：福原圭一氏（上越市公文書センター上席学芸員）

日時：4月29日（木・祝） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：40名

第4回「武田信玄と織田信長・徳川家康」

講師：柴裕之氏（東洋大学非常勤講師）

日時：5月8日（土） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：40名

○かいじあむ講座

第1回「基礎から学ぶ武田信玄」

海老沼真治（当館学芸員）

日時：3月21日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：45名

第2回「絵画で語り継がれる武田信玄」

松田美沙子（当館学芸員）

日時：5月2日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：44名

○《第2回》TKD 総選挙

投票期間：3月13日（土）～4月25日（日）

結果発表：5月1日（土）

総投票数：3,865票

第1位：山本菅助

第2位：武田勝頼

第3位：武田信繁

○TKD お城総選挙

投票期間：3月13日（土）～4月25日（日）

結果発表：5月1日（土）

総投票数：3,137票

第1位：高遠城

第2位：要害山城

第3位：海津城

【発行物】 図録 A4変形・154頁 1,050部

2 入場者数

【入館者数】 16,852名（1日平均入館者数：330名）

3 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1,000枚

・ちらし A4 40,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞記事（山日新聞 連載など）

3 総括

- ・東京都などで緊急事態宣言が出される中での開催となり、オープニング式典を実施しないなどの影響もあったが、平日・土休日問わず多くのご来場をいただき、生誕500年を迎えた武田信玄に対する関心の高さがうかがわれた。
- ・特に土休日には、一時的に企画展示室の入室者数の上限（120人）に迫ることもあり、入場制限を行うまでには至らなかったが、今後の対応方法について改めて検討しておく必要がある。
- ・緊急事態宣言の影響で来場を断念された方も多く、展示や講演会の内容のオンライン発信等を希望する声もあった。
- ・内容面では、特に恵林寺の「不動明王及び二童子像」の出品と調査内容の事前公開によって大きな注目を集めることができた。
- ・図録は共催者である山梨日日新聞社の配慮により、書店販売できる形での出版とすることができ、ミュージアムショップだけでも1500冊以上の販売があった。
- ・課題としては、古文書の展示が多くなったが、キャプション以外に十分な解説を示すことができなかった。解説のいっそうの充実を図ること、そのための十分な準備の時間を設けることを心がけたい。
- ・今後も武田氏関係の周年が続くので、今回の特別展だけにとどまらず、常設展においても継続して武田氏関係の展示を充実させるなど、興味関心を喚起できるような工夫を行いたい。

令和2年度第2回（通算第32回） 山梨県立博物館資料・情報委員会の実施について

1. 開催期間 令和3年2月8日（月）から2月28日（日）まで
2. 開催場所 新型コロナウイルス感染症対策として書面により開催
3. 対応者 新津委員長 鈴木（麻）副委員長 新井委員 黒田委員 小島委員
鈴木（卓）委員 内藤委員 西村委員 ※委員8名全員
4. 傍聴者等の数 書面による開催のためなし
5. 議題

（1）購入案件

浮繪富士裾野牧狩之圖 歌川豊国筆 1点

歌川豊国の手による、大判錦絵の作品。建久4年（1193）5月に、源頼朝が富士の裾野で行った巻狩りの様子が描かれている。中央奥に富士、右手奥に巻狩の様子を見る頼朝と、中央には大猪と格闘する仁田四郎忠常の姿が表されている。

価格評価額 80,000 円

提示価格 55,000 円

委員からの意見

初代歌川豊国筆の「浮繪富士裾野牧狩之圖は、県博の企画展に使う候補にあがっている貴重な資料であることから言っても、当館購入資料として承認いたします。

富士関係資料として購入することが妥当である。評価額も適正である。

異議なし。

山梨県博が所蔵するにふさわしい資料として購入に賛成いたします。

保存状態は最良とは言い難いが、同一作品が今後入手できるという可能性は高くない。金額も妥当であると考えます。

購入に同意致します。なおこれまでの牧狩図とともに展示したり、画法の違いの解説等を含め、活用を期待いたします。

展示に利用できて良い資料だと思います。ちなみに裾野の巻狩なので、甲斐との関係はどうかのな、という点は思いますが、收藏方針として富士山モノは収集するというのでしょうか。

水晶採掘人夫出勤簿 1冊

水晶採掘作業員の出勤簿。1941～45年頃にかけて甲府市北部の向山鉦山において操業した明電舎のもの。昭和17年5月から10月にかけての、作業員9名の勤務状況や、同年10月の事務所費の支出が書き付けられている。

価格評価額 5,000 円

提示価格 5,000 円

委員からの意見
水晶採掘の現場で働いた人夫の出勤簿そのものが、残っていること自体珍しい。この資料によって採掘の時期や坑道にどのくらいの人員が入り込んでいたのかを知ることができる。かつて国立歴史民俗博物館で岡谷の製糸工場での「帰国工女性名簿」を入手したことがあるが、この資料によって、工女がどのような理由で、工場から家に帰って行ったかを知ることができ、製糸会社で働く工女の労働状況を把握するのに恰好な資料となったが、この出勤簿も水晶採掘人夫の労働の実態を推測する手掛かりともなる貴重な資料であるので、購入資料として承認いたします。
水晶発掘状況を示す資料として購入することが妥当である。評価額も適正である。
正確な周波数を作るための水晶は重要な軍事物資であり、貴重な資料と存じます。購入に賛成いたします。
購入に賛成です。
産業史の史料として、収集に相応しいと考える。
貴重な資料として購入に同意致します。水晶関係の資料については、今後も積極的に求められる事を望みます。なお、昇仙峡奥地では、採鉱ヶ所がいくつか知られており、この調査にも関心を寄せられてください。
山梨ならではの資料であり、水晶関係の資料の収蔵が少ないようなので、ぜひとも購入いただければと思います。山梨の産業・労働を考える上で貴重だと思います。

(2) 寄贈案件

甲府道祖神祭幕絵 太閤記 佐久間盛政羽柴秀吉を狙ふ 模写屏風 西井正氣筆

六曲一双 1点

日本画家であり、世界的な芳年コレクターである西井正氣氏による屏風。当館蔵の月岡芳年筆「甲府道祖神祭幕絵 太閤記 羽柴秀吉佐久間盛政を狙ふ」(美-2019-000-00001)を忠実に模写した屏風。なお、模写の方法は現状模写(絵の具の剥落等もそのまま再現する方法)が取られている。

委員からの意見
甲府道祖神祭礼幕絵は、3点現存しているが、そのうちの2点は初代広重と二代広重の作品で、すでに当館所蔵となっている。もう1点が、月岡芳年の「太閤記 佐久間盛政羽柴秀吉を狙う」であり、これも当館蔵である。寄贈を受ける

幕絵は、この月岡芳年筆の幕絵を、日本画家の西井正氣が、昭和 51 年(1976)に借り出し、不眠不休で現状模写を行ったものという。芳年コレクターで知られる西井氏の忠実な模写は、どのような意図で行われたのかを考える上でも、欠かすことができない資料といえる。今後、当館の展示などでも使える歴史資料でもあるので、寄贈資料として承認いたします。

模写屏風であるが、制作過程等が明らかであり、原資料の補助資料としての活用も可能なことから、受贈することが妥当である。

レベルの高い模写ということで、評価の高いものと存じます。受入に賛成いたします。

寄贈を受けることに賛成です。

原本の展示日数は限られる為、展示用に必要不可欠な模写作品である。

寄贈に同意致します。展示に工夫してください。

展示などでさまざまな利用が期待できると思います。

中村豊春氏収集資料 85点

笛吹市在住の中村豊春氏が収集した資料。県内で蔵を取り潰す等の家が出た際に、その蔵のものを譲ってもらう形で収集した資料群で、山岡鉄舟の書などから成る。

委員からの意見

県内の個人が、県内の家で土蔵など壊す時に交渉して、長年にわたって収集した資料群という。特定の旧家に保存され伝わってきたものではなく、収集してきた資料であるので、バラエティに富んでいる。旧家の見取図、大田蜀山人の軸、山岡鉄舟の書、近代の画家の作品、さらに文書類には道中記、日記類なども含まれており、今後内容分析していくと、近世から近代にかけての県内で生きた人々の、さまざまな実態が浮かび上がってくる可能性がある。収集家の努力がなければ、資料として県内に残らなかったことも考えられ、当館への寄贈資料としてふさわしいと判断いたします。

資料群形成の経緯は明確であり、県内旧家関係資料として受贈することが妥当である。

整理が大変そうですが、そこは学芸員のがんばりに期待いたします。受入に賛成いたします。

笛吹市素封家の伝来品で、できれば一括での収集が望ましい。

寄贈に同意致します。85点と多いことから、資料整理や目録づくりをしっかりと行って下さい。本来の所蔵家ができるだけわかると良いですね。

もともとの所蔵者が不明なのが残念だが、地元の資料であり、収蔵に適していると思われる。中村氏などから、聞き取りによるもともとの所蔵者情報を得ることが可能か、気になるところです。

下粟生野村田邊家文書 52点

下粟生野村(甲州市)で名主を務めた田邊家に伝わる江戸～明治時代頃の古文書、絵地図類。

委員からの意見
近世には名主、近代に入ってからには副戸長職をつとめた名望家の家につたわる資料群で、検地帳、水帳、宗門改帳、宗旨人別書上帳、村の全図、地籍図、絵図など、数は多くはないが、村の基本的資料がそろっている。とりわけ近世の山を巡る争いを明らかにする「山論裁許絵図」(写し)や、幕末維新时期で新選組が関わった甲陽鎮撫隊の動向などを知ることができる貴重な資料などが含まれており、今後研究を深めれば、展示等にも十分活用できる資料と判断した。当館への寄贈資料としてふさわしいと判断いたします。
地域史研究史料として受贈することが妥当である。
希少価値の高い資料と拝察いたしました。受入に賛成いたします。
甲州市伝来の地方文書群。織豊時代末期から幕末史・資料を多く含み、研究及び普及事業に有益なものと判断される。
寄贈していただくことに同意します。時代の継続性は少ないようですが、明治まで含まれており、貴重な資料と思います。
慶長検地帳が発見されたことはたいへんすばらしいと思います。その他下粟生野村の地方文書として重要ですので、ぜひ寄贈を進めて下さい。

糸賀茂男氏収集文書 2点

日本中世史研究者の糸賀茂男氏(常磐大学名誉教授、土浦市博物館・上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長)が収集した古文書のうち、甲斐国関係のもの。天正11年(1583)の徳川家朱印状写2通。

委員からの意見
信頼できる中世史研究者の収集資料ということも含めて、県博で寄贈をうけ、今後の研究や展示等で活用する資料として、寄贈を受けることを承認します。
武田氏関係史料として受贈することが妥当である。
受入に賛成いたします。
歴史家収集の文書。写したが、甲州史に関係するものであり、収集すべきである。
寄贈に同意いたします。
貴重ですので、ぜひ寄贈を進めて下さい。

(3) 寄託案件

紙本墨書獬狗經（山梨県指定文化財） 1巻

平安時代後期に法隆寺（奈良県）で書写された一切経約7000巻のうちの1巻。奥書から保安4年（1123）に僧智巖が書写し、林幸が交合を行ったことがわかる。

委員からの意見
県指定文化財という点からも、安全に保管することの必要性があり、その意味でも県博が寄託を受け入れるべきことと判断します。
山梨県指定文化財の寄託申請案件であり、当該文化財の保管や公開という観点からも受託すべきである。
県指定文化財の寄託ということで異論ございません。
寄託を受けることに賛成です。
平安末の一切経書写本（可能であれば、修理したい）
寄託に同意致します。県指定文化財でもあり、適切な保管が望まれます。
県指定品なので寄託して管理するのは妥当だと思います。

八王子神祈願図絵馬（山梨県指定文化財） 1面

神戸村（現甲斐市）の八王子権現社に懸けられていた絵馬。表面には八王子権現社を模式的に表現したものとみられる人物絵画が、裏面には奉納者の願文があり、中世の絵馬の残存例として貴重である。

委員からの意見
このような絵馬は屋外に懸けられることが多いため、残存の例が少ないということと、描かれた内容も読み取れ、保存状態も良好ということとを踏まえると、当館が寄託を受け入れるべきと判断します。
慶長四年奉納の山梨県指定文化財の寄託案件であり、当該文化財の保管や公開という観点からも受託すべきである。
県指定文化財の寄託ということで異論ございません。
寄託を受けることに賛成です。
展示歴ある神社絵馬。赤外線画像と併せて展示効果あり。
寄託に同意致します。以前実見しましたが、本体の材質もしっかりしており、手斧痕も残り、時代性も伺われる。色彩はうすれかかるとともに、虫害痕もあった記憶がある。寄託を受けて、適切に保存・保管される事を望みます。
県指定品なので寄託して管理するのは妥当だと思います。

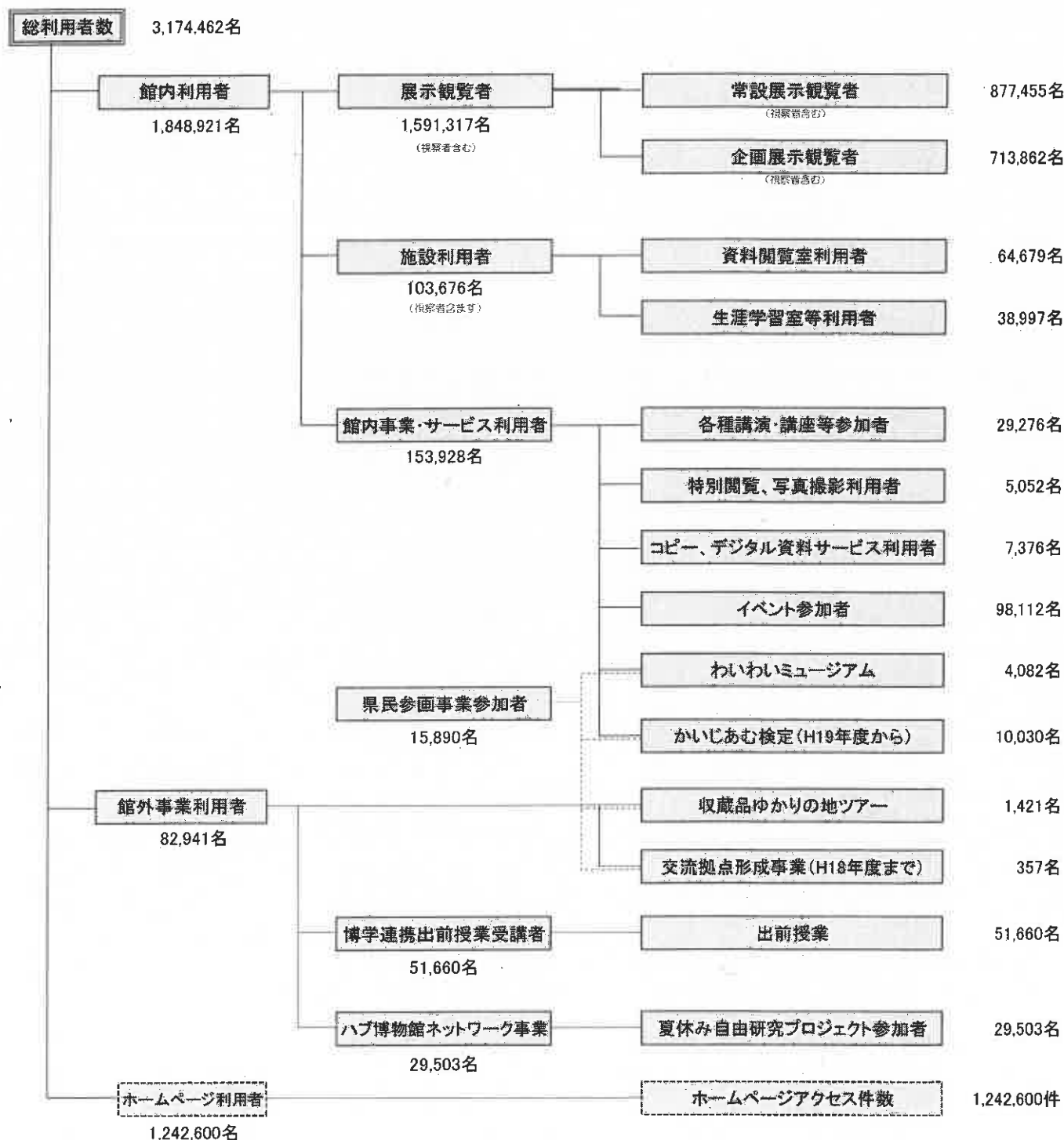
県立博物館における「利用者」の状況

平成17年10月15日～令和3年5月末日まで

令和3年5月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
 なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、開館(平成17年10月15日)以来、令和3年5月末日までの状況をまとめている。



博物館の利用者の状況について

■年度別統計

	館内利用者 (a+b+c)											入館者センサデータ				館外利用者				ホーム ページ 利用者				
	展示利用者 (a)			施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)					サードデータ	出館授業等 貸し出しキット 外部講座	県民参画事業			ハブ博物館 ネットワーク事業							
	常設展示 (観覧)		企画展示 (観覧)	資料閲覧室		生涯学習室	利用者		特別閲覧・写真撮影等		イベント			わいわいミュージアム		交流拠点		形成事業						
	観覧 (券数)	観覧 (人数)	観覧 (人数)	利用 (人数)	利用 (人数)	特別閲覧 (人数)	写真撮影 (人数)	参加者 (人数)	参加者 (人数)	参加者 (人数)	参加者 (人数)			参加者 (人数)	参加者 (人数)	参加者 (人数)			参加者 (人数)					
2021年度	24,639	23,491	9,959	565	11,861	1,106	559	378	181	589	277	42	100	170	0	0	0	1,707	247	247	0	0	0	25,619
2020年度	27,597	25,634	16,994	1,248	6,656	736	304	55	249	1,659	102	380	88	524	278	287	0	7,718	1,832	1,832	0	0	0	97,748
2019年度	124,689	110,406	51,450	2,805	52,583	3,568	5,046	3,200	1,846	9,237	1,602	748	729	5,072	271	815	0	72,756	9,486	4,701	0	0	4,785	110,903
30年度	111,365	94,208	45,437	2,537	43,629	2,605	5,955	3,483	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	0	69,236	8,122	3,882	0	0	4,260	101,670
29年度	131,264	111,640	55,118	2,396	50,704	3,422	4,745	3,191	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	0	86,532	6,646	4,207	0	0	2,439	98,200
28年度	97,898	79,620	41,133	1,959	33,918	2,610	4,836	2,924	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	0	66,969	10,071	4,327	0	0	5,744	94,696
27年度	155,517	140,658	57,879	1,705	77,538	3,536	6,032	4,140	1,892	8,927	1,309	306	343	5,673	396	800	0	111,441	5,303	4,434	0	0	869	91,483
26年度	109,888	95,994	47,119	1,130	45,502	2,243	5,961	3,609	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	0	78,297	5,548	4,740	0	0	808	85,188
25年度	121,898	106,041	57,860	1,864	43,886	2,431	6,805	4,067	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	0	88,910	7,220	6,350	0	0	870	83,998
24年度	107,246	91,464	49,341	2,359	37,354	2,410	6,351	2,983	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	0	71,736	7,110	6,077	0	0	1,033	85,825
23年度	112,026	96,890	49,856	3,030	40,232	3,770	5,758	3,354	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	0	75,053	4,658	3,721	183	0	754	84,159
22年度	145,519	124,081	56,505	3,281	55,858	8,437	6,137	4,060	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	0	101,227	3,728	2,670	141	0	917	82,123
21年度	145,172	125,928	59,508	1,876	59,780	4,764	6,394	4,399	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	0	99,290	5,194	3,871	274	0	1,049	83,449
20年度	97,551	77,681	49,634	1,896	23,785	2,366	8,199	4,754	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	0	74,423	2,781	1,076	180	0	1,525	69,561
19年度	126,055	109,082	66,291	1,602	39,305	1,884	10,422	7,306	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	0	95,348	4,833	1,317	166	0	3,350	72,373
18年度	149,254	127,856	92,277	2,159	31,905	1,515	12,369	7,957	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	0	124,698	1,576	156	195	125	1,100	70,402
17年度	113,579	99,768	66,274	1,172	32,304	18	8,866	5,252	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	0	85,348	665	151	282	232	0	28,570
計	1,848,921	1,591,317	845,684	31,771	688,283	45,579	103,676	64,679	38,997	153,928	29,276	5,052	7,376	98,112	4,082	10,030	0	1,301,264	82,941	51,680	1,421	357	29,503	1,242,600

県立博物館の活動と評価制度

■整備のコンセプト ※平成17年度年報より抜粋、下線部は事務局による

県民自らが学び、考える場の提供

展示などをおして山梨の歴史や文化などに触れ、それを素材に子どもから高齢者まで、多くの人々達が集い、語り、考える交流の拠点を提供する。

山梨の個性の紹介

山梨特有の歴史、文化や産業などを自然との関わりの中で解き明かし、その個性を広く国内外に向かって紹介する。

文化の継承・発展

山梨の豊かで多様な自然に育まれた貴重な文化遺産等を守り、保存し、未来に引き継ぐとともに、新たな文化の創造を目指す。

■使命 ※令和元年度年報より抜粋、下線部は事務局による

【使命1】山梨県立博物館は、「山梨の自然と人との関わり」の歴史を学ぶ場を目指します。

山梨県の歴史の特色は豊かで多様な自然に育まれた人々の個性あふれる暮らしの歴史である、とまとめられます。だからこそ「山梨の自然と人との関わり」の歴史を学ぶことは、現在よりもより未来へ開く扉の鍵を探ることにつながるのです。

山梨県立博物館ではその一例として、本県の特色ある生業や富士山への向かい方、武田氏の動向等々について総合的に資料の収集・調査・研究を行います。そして、その最新の成果を「山梨県の精神の拠り所」として絶えず利用者の皆様に問いかけ、ともに考え続けます。

【使命2】山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。

山梨県は、周囲の高い山々によって閉じられた地域という印象を持たれています。ですが、四方を高い山々に囲まれた地域だからこそ、山梨の先人達は昔から活発な「交流」を求めてきました。

こうした歴史にふさわしく、山梨県立博物館は、県内各地の様々な文化施設、史跡・自然をはじめ、県内外の多くの皆様と活発に交流を行います。「交流」のセンターとして、当館を起点に県内各地へと多くの人々の誘導を図り、本県の活性化に絶えず努めます。

【使命3】山梨県立博物館は「成長する博物館」を目指します。

山梨県立博物館は、最新の調査・研究成果を展示やイベント内容等に反映させ、絶えず新しい情報の発信に努めます。

また、社会情勢の変化や、利用者の知的関心、学習意欲の高まりに対応して、歴史・文化の視点に立った新たな価値観や未来像を、展示等をおして考えてもらう場となることを目指します。

特に、山梨県の県立博物館として、農林業・伝統産業・観光や水資源・過剰化等、現在の山梨が抱える様々な課題を乗り越えていくために、県民の皆様とともに未来の山梨のあり方を考え、連携を進めます。

これらをおして、山梨県立博物館は、その事業・活動等が広く県民の皆様とともに成長して、全国の目標となるような博物館を目指します。

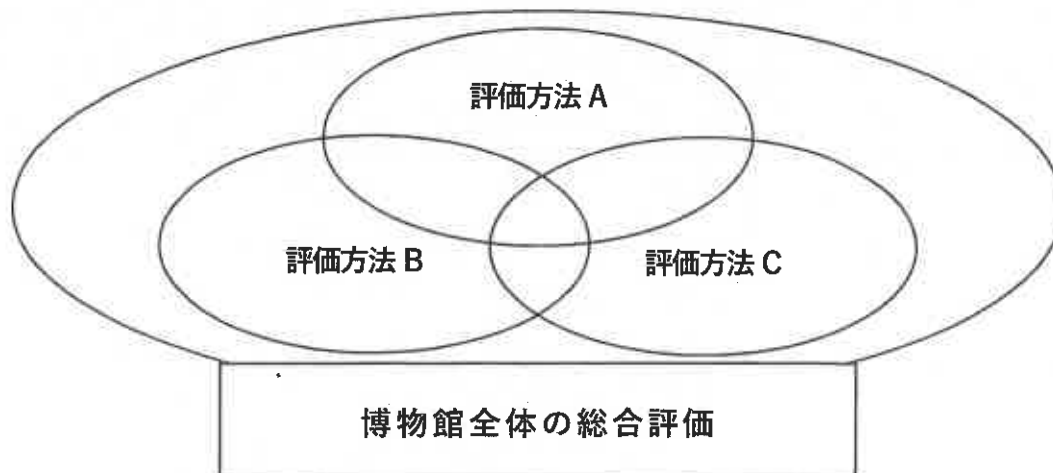
■評価制度の基本方針 ※平成18年度年報より抜粋

県立博物館の使命を実現させるためには、評価制度の基本方針として次の3点を満たすものとする。

- ・県立博物館の活動総体を県内外に周知し、館の運営をより良い方向へと推し進めるための評価であることを第一の目標とする。
- ・評価にあたっては県民参画型の方法を導入し、また、外部有識者などの第三者を交えた客観性を保った評価方法とする。
- ・館の運営の実情に合わせ、柔軟に変化・対応させていくといういわば「成長する評価」とする。

■評価体系 ※平成18年度年報より抜粋

評価方法	評価主体	評価対象	目標達成度を測る基準	評価の客観性	改善の方向
A 数値評価	博物館	数値化可能な項目	目標数値に対する実際の達成度	数値そのものが客観的指標	目標数値
B 自己診断		数値化に馴染まない項目	目標達成に向けて何を行ったか一覧化	博物館による自己点検。運営委員会からの意見がある場合はそれを記載	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施
C 利用者評価 ※通信簿ツアー	利用者		利用者から見た評価点と改善点の一覧化	利用者の立場からの客観的評価	利用者自身によって改善
総合評価	運営委員会	A～Cの結果に基づき、総合的に評価		県民の立場から、また学術的立場から、運営委員会において客観的に評価	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施



令和3年度博物館評価 検討・実施スケジュール (案)

